

DOM ZA VEŠANJE



1989年カンヌ国際映画祭
最優秀監督賞 / ロベルト・ロッセリーニ賞受賞



漂泊の民
ジプシーがたどる
夢と幻の日々

鬼才クストリツァが流麗に描く一大叙事詩

ジプシーのとき

「パパは、出張中!」の
エミール・クストリツァ監督作品

製作:ミルザ・ハンッチ
脚本:エミール・クストリツァ、ゴルダン・ミヒッチ
撮影:ヴィルコ・フラチ
美術:ミレン・クリヤロヴィッチ
音楽:ゴラン・アレゴヴィッチ (サントラ盛・日本フォノグラム)
製作総指揮:ミラン・マルティノヴィッチ

ダヴォール・ドゥイモヴィッチ
ボラト・ロヴィッチ
リュビツァ・アジョヴィッチ
フスニャ・ハスイモヴィッチ
スィリチカ・テボコヴァ
ザビット・メドヴツ

1989年 ユーゴスラビア映画 ●フォーラム / サラエヴォ・テレビ製作
配給
ヘラルド・エース / 日本ヘラルド映画

ジプシーのとき

前作『ハハは、出張中!』で'85年のカンヌ国際映画祭グランプリを見事獲得した
ユーゴスラヴィアの俊英エミール・クストリツァ監督。

彼の最新作『ジプシーのとき』は、神秘に包まれた流浪の民ジプシーの世界を、
一人の青年の成長を通して表現した叙事詩的な大作である。

彼が4年ぶりに撮ったこの作品は、'89年カンヌ国際映画祭で
〈最優秀監督賞〉と〈ロベルト・ロッセリーニ賞〉を受賞、その豊かな才能をあらためて世界に示した。



ダヴォール・ドゥイモヴィッチ
ボラ・トドロヴィッチ
リュビツァ・アジョヴィッチ
〈監督〉
ゴラン・ル・クストリツァ
〈音楽〉
ブラン・プレゴヴィッチ
(サントラ盤:日本フォノグラム)
1989年/ユーゴスラヴィア映画
フォーラム/サラエヴォ・テレビ製作
〈配給〉
ヘラルド・エース/日本ヘラルド映画



●ジプシーの神秘に迫る一大叙事詩

ジプシーは、約600年ほど前に西ヨーロッパへ移って来た民族であることが確認されており、ヨーロッパを中心に約400~500万人が点在している。しかし、彼らの生活、文化等については今までほとんど明らかにされてはなかった。というのも、ジプシーはその独特の生き方に強い誇りをもっており、ある種の侵し難い伝統と生活様式の中で生きているからだ。彼らは一般社会とは一線を画し、自分たちの間のみ通じる言葉「ロマニー語」(文字はない)を用い、自らを「人間」を意味する「ロム」と称して常に放浪を続けている。

この映画は秘められたジプシーたちの姿を、土着的な風俗のストレートな描写と、超現実的なイメージを、クストリツァならではの優しさと詩情を交えながら巧みに構成することによって見事に表現している。

●鬼オクストリツァの、人間への温かい眼差し

クストリツァがジプシーに関する映画を作るきっかけとなったのは、新聞に載ったある記事だった。それは、誘拐した子供たちを売買しているジプシーの団体の逮捕を伝えたもので、その事実にくストリツァは衝撃を受けると共に、そこに映画的なテーマを見出した。何百年も独自の生活様式を守り、生きながらえてきたジプシーの本当の姿を知り、そして伝えたいと思ったのだ。そこで脚本家のゴルダン・ミヒッチと共に、実際にジプシーたちの生活に入り込んで取材した。中でもイタリア中で盗みを働き、刑務所に入れられていた10代の少年の話に興味を持った2人は、彼に関するエピソードを多くシナリオに盛り込んだ。その少年の名は映画の主人公と同じく「ベルハン」といった。

クストリツァは語る。

「ジプシーと暮して感動したのは、夢と共に生きる暮し方でした。彼らはそれを、祭、結婚式、洗礼式、葬式などを通して、日々伝えていくのです」

●世界初のロマニー語による映画。

『ジプシーのとき』の製作は長く、困難を極めた。撮影に9ヶ月、編集等に6ヶ月を費し、しかもセリフの90パーセントはジプシーだけに使われているロマニー語であった。またキャストの大半は本物のジプシーで、演技は初めてだったという。

製作スタッフは2ヶ月の間ユーゴスラヴィア中を巡り、ジプシーが生活する地区を訪ね、2000人にのぼるジプシーに会い、オーディションをして主要キャストからエキストラに至る24人が選ばれた。祖母役のリュビツァ・アジョヴィッチ、叔父役のフスニャ・ハスイモヴィッチなどは、まさにプロ顔負けの演技を見せている。

主人公のベルハンには、『ハハは、出張中!』でマリク少年の兄ミルザを演じたダヴォール・ドゥイモヴィッチ、恋人アズラには『ハッピー'49』のスィノリスカ・テプコヴァ、ベルハンのボス、アーメドにはユーゴスラヴィアを代表する俳優として有名でD・マカヴェイエフ監督の『モンテネグロ』で世界的な評価を得たボラ・トドロヴィッチがそれぞれ演じている。

●忘れられないメロディ、ジプシーの旋律。

撮影は、ネストール・アルメンドロスに“世界でもトップクラスのカメラマン”と絶賛されたヴィルコ・フィラチが担当、音楽はクストリツァの幼なじみでユーゴスラヴィアの音楽シーンに変革をもたらしたゴラン・プレゴヴィッチが担当している。彼はユーゴスラヴィア南部のジプシー音楽や、セルビア正教の聖歌、イタリアの伝統音楽等を素材にして印象に残るテーマを作曲した。

この映画は'89年12月、ユーゴスラヴィアで公開されるや、国内に75万人いるといわれるジプシーたちの半数が鑑賞し、130万人を動員する大ヒットを収め、映画にまつわるエピソードを集めたテレビのミニシリーズが放映されるなど大きな反響を呼んだ。また、フランスでは'89年1月に公開し200万人を動員、アメリカでも多くの観客を動員するなど世界的にも大ヒットを収めている。(上映時間2時間23分)

427日(土)より
月27日 [エキブ・ド・シネマ]
G・Wロードショー

●地下鉄(都営三田線・新宿線/営団半蔵門線)神保町駅・下車1分
JR(中央線)水道橋またはお茶の水駅・下車12分 ●特保町交差点

岩波ホール (3262)
5252

特別鑑賞券1300円発売中!

(当日1600円均一の処)

●岩波ホールチケット・ガイド(ビル1階)の他都内プレイガイドにて発売中/
●団体のお申し込み・お問い合わせは岩波ホール及び株式会社(3541)2508へ
上映時間(入れ替え制/自由定員制)

連日	11:30	3:00	6:30
----	-------	------	------